

2010 年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） ○古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 正倉院文書に関する史料学情報の研究資源化連携
3.申請者 (所属部門・職名・氏名) 古代史料部・教授・山口英男
4.所内共同研究者 (所属部門・職名・氏名) 古代史料部・助教・稲田奈津子 古文書古記録部・助教・井上 聡
5.希望する研究期間 2010 年度～ 2011 年度 (2 年間)
6.課題の概要(400 字程度) (この項は広報等に利用・掲載することがあります) 約 1 万点を数える正倉院文書は、日本古代史研究にとって最重要史料のひとつであり、美術・工芸・宗教・日本語・服飾・食物など、文化・科学・産業・生活全般にわたる歴史情報の宝庫である。正倉院文書研究に関わる研究者は数多く、正倉院文書から抽出される多種多様かつ大量の史料情報・研究情報を効率的に集約・利用できる基盤の構築が、関連研究の飛躍的発展の基礎として強く期待されている。本課題は、正倉院文書の字形・字体データの共有利用方式を検討することを通じて、正倉院文書から抽出される史料情報・歴史情報の学術資源化を強化発展させていくための基盤となる関連研究機関・研究者組織の連携の実現を図ろうとするものである。
7.研究の目的(400 字程度) 正倉院文書の史料学的調査・研究とその成果の公開に関しては、所蔵機関である宮内庁正倉院事務所による宝物調査、東京大学史料編纂所による原本調査と『大日本古文書』『正倉院文書目録』の刊行、国立歴史民俗博物館による複製製作事業が行われている。正倉院文書に関する大規模データベースとしては、大阪市立大学の正倉院文書データベース (SOMODA)、史料編纂所の奈良時代古文書全文データベース (奈良全文 DB) があり、史料編纂所はこれらの機関・組織と既に協力関係を持っている。また、文字史料の字形・字体データベースの面で、奈良文化財研究所の木簡字典データベースと史料編纂所・崩し字データベースの連携が成立し、今後、古代の字形・字体に関する総合的データベースへの

発展を視野に入れうる状況となっている。正倉院文書に関する学術情報の資源化連携を実現するためには、調査・目録データ、画像データ、テキストデータ等について、データの仕様、データの搭載・検索システム、利用目的、利用環境等の分析と、可能な連携形態の設計が必要である。この作業を、正倉院文書の字形・字体データベースの共同利用・共同構築方式の検討研究を通じて実施することが、本課題の目的である。

8.共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)

関連機関・組織が抽出・蓄積・運用している正倉院文書の学術情報及び学術資源化システムは、それぞれ固有の具体的目的に即した内容であるが故に、研究利用上の高い価値を有している。各機関・組織がそれぞれメリットを得る形で学術資源化連携が実現することは、正倉院文書研究の飛躍的発展の基盤となり、正倉院文書に関わるあらゆる分野の研究者に簡便で扱いやすい研究環境を提供することになる。

9.研究の実施計画

下記の内容の打ち合わせ会及び研究会を実施し、史料情報の調査・収集・分析を行なう。

- 正倉院文書の原本データの学術資源化
- 正倉院文書研究の学術資源化
- 正倉院文書の研究環境の分析
- 正倉院文書関係データベースの分析
- 字形・字体データベースの分析

(※課題の展開に応じ、より大型の外部資金等の獲得・移行を検討)

10. 研究成果の公開計画

崩し字データベース・木簡字典データベース連携による正倉院文書の字形・字体データベースの試行公開

11. 共同研究員にもとめる役割

下記の研究実績に基づき、共同で史料情報の調査・収集・分析を実施し、データベース構築・字形字体分析に関して研究する。

- 正倉院文書の史料学的研究・調査
- 正倉院文書関係データベースの構築
- 史料の字形・字体分析